

令和7年度第4回小田原市生活交通ネットワーク協議会 議事録

日 時：令和8年3月26日（木）午前10時～午前10時40分

場 所：生涯学習センターけやき2階 大会議室

出席者：出席者名簿参照

○議題

1 報告事項

- (1) AI オンデマンド交通実証事業について
- (2) バス運転士の確保に向けた取組について
- (3) おだタク・おだチケ実証事業について
- (4) 箱根板橋駅のエレベーター設置について
- (5) バスの乗り方教室・バス de おでかけプロジェクト・バスマップについて

2 その他

○意見交換等

・非公開事項の確認	
事務局	本会議は、本協議会規約の第5条第5項により「会議は原則公開とする。ただし、公開することにより、公正かつ円滑な議事運営に支障が生じると認められる協議については、非公開で行うものとする。」と規定しているが、本日の報告事項（1）AI オンデマンド交通実証事業については、4月以降に実施する公募型プロポーザルに係る内容を含むことから、非公開とするよう提案する。
会長	報告事項（1）AI オンデマンド交通実証事業について を非公開とすることについて、意見等はあるか。
	（全員賛成）
会長	それでは、報告事項（1）は非公開として議事を進める。
・報告事項1 AI オンデマンド交通実証事業について ※非公開	
・報告事項2 バス運転士の確保に向けた取組について	
事務局	<p>【資料2に基づき説明】</p> <p>1点目に、3月1日（日）に開催された神奈川県バス協会主催の会社説明会について。小田原駅東口の市民交流センターUMECOにて、市内を運行する4社を含む9社が参加し、当日の参加者は16名であった。横浜のラジアントホールでの開催時が19名、藤沢の商工会議所での開催時が22名の参加があったため、</p>

	<p>参加者数は若干少ない結果となったが、県バス協会では今後も県内各所で説明会を実施していくとのことで、令和8年度も小田原会場での開催を検討いただいている。</p> <p>次に、小田原ドライビングスクールで開催予定のバス4社合同運転体験会・就職相談会について。資料のチラシ、及びバスの車内広告やポスターの掲出、また市HPや広報での周知を順次開始するが、会員の皆様の施設等での周知について個別に相談させていただくので、協力をお願いしたい。</p> <p>今回の取組では、南足柄市・箱根町・真鶴町・湯河原町との連携が決まった。バス4社、ハローワーク小田原、小田原ドライビングスクールも含めた関係者間で協力し、運転士の確保につながるよう取り組んでいく考えである。</p>
会長	<p>チラシの「申込」欄について「“各部”定員20名に」修正をお願いします。申込に締切はあるか。</p>
事務局	<p>現状、締切を設けずに募集する考えだが、前回は開催の4日前くらいに定員に達した。定員に達した場合はその時点で受付終了となる。</p>
会長	<p>前回採用に至った運転士は継続して勤務しているか。他市町では、残念ながらすぐに辞めてしまったという事例もあった。</p>
バス各社 会員	<p>継続して働いている。</p>
<p>・報告事項3 おだタク・おだチケ実証事業について</p>	
事務局	<p>【資料3に基づき説明】</p> <p>片浦地区で相乗りタクシーを運行する「おだタク」については、これまでの実証運行の結果や地域の意向をふまえ、令和8年4月以降は実証運行から本格運行へ移行することとなった。本格運行後も必要に応じて運行ダイヤの見直しを行うなど、引き続き、地域と連携して取り組んでいく。</p> <p>次に、70歳以上の運転免許非保有者と妊婦を対象にタクシー・路線バス共通助成券を配付する「おだチケ」については、対象地区や金額を変更せず、第6弾として4月から11月まで事業を実施する。利用実績として、目的地までドア・ツー・ドアで移動できるタクシーでの利用が比較的多く、事業継続を望む声が多い一方、年齢制限や運転免許保有者が配付対象にならないことや、地域によってはタクシーの配車に恒常的に時間がかかり、利用機会が限定されることなどを課題として認識している。</p> <p>このことから、路線バスやタクシーなどの既存の公共交通に加え、AI オンデマンド交通といった誰もが利用できる新たな交通手段の導入による交通ネット</p>

	<p>ワークの維持・確保の検討もふまえながら、引き続き、事業に取り組んでいく考えである。</p>
会長	<p>第3弾以降、対象エリアなど事業内容は同様で取組を続けてきたが、利用状況は変化しているか、あるいは安定しているか。傾向があれば伺いたい。</p>
事務局	<p>第3弾から第5弾で申請率や利用率に大きな変化はなく、微増で安定している。対象者数に対して申請率は5割程度、チケットの利用率が6割弱程度で推移している。継続してきたことにより事業の周知が進み、徐々に伸びているものと捉えている。</p>
会長	<p>妊婦の状況はどうか。</p>
事務局	<p>妊婦には運転免許の保有状況に関係なく配付しているので、申請率というものはないが、第3弾から配付を開始した当初は、利用率が1割強程度しかなかったときもあった。一方で、月によっては4割を超えるなど、傾向がつかみにくい。</p>
事務局長	<p>妊婦については、その時々体調や個人の事情により利用状況も変わるため、利用率などは安定しないものかとも考えている。</p>
会長	<p>大阪メトロが3月から大阪市内の全24区で運行するオンデマンドバスに関して取材を受ける機会があった。その中で、妊婦や子育て世代では、混雑しやすいバスや鉄道の利用は避けたいという考えも多く、オンデマンドバスの運行は好評との話を聞いたところだった。</p> <p>夫婦と子ども2人のいわゆる標準世帯といわれる世帯の割合は、近年少数派であり、独居や夫婦のみという家族構成がほとんどの中、妊婦は身近に頼れる人がおらず、移動に関しては公共交通が大いに支えになっている面がある。</p>
会員A	<p>妊婦に対しても、おだチケの配布対象は交通不便地域だけか。人数も多くないので全域に拡げても良いのでは。</p>
事務局	<p>公共交通不便地域における移動支援策の1つとして実施しているもので、エリアの拡大は現時点で想定していない。</p>
会長	<p>予算の都合もあるだろうが、妊婦に対するおだチケの取組は、確かに公共交通不便地域であるかどうかは関係ない。</p> <p>ムーバスというコミュニティバスで有名な武蔵野市でも、やはりバスの混雑を避けたいというニーズや、運行本数を若干減らすという状況があり、タクシーの</p>

<p>副会長</p> <p>会長</p>	<p>迎車料金の補助ができないかという検討を進めている。アプリ内で完結する仕様を考えているようだが、妊婦や子育て世帯に対して、通常のタクシーを活用する視点の取組も様々ある。</p> <p>公共交通不便地域の対策としての取組か、子育て支援としての取組かという論点があるが、今回の協議会で出た意見として、事務局から担当部署にも共有してほしい。</p> <p>よく検討してもらいたい。</p>
<p>・報告事項4 箱根板橋駅のエレベーター設置について</p>	
<p>事務局</p>	<p>【資料4に基づき説明】</p> <p>箱根板橋駅にエレベーターを2基設置する工事を施設管理者である株式会社小田急箱根により実施いただくこととなった。設置にかかる経費には、国・県・市の補助金を活用する予定となっている。</p> <p>資料は整備のイメージ図のため、実際の内容や外観は異なる可能性がある。工事期間は令和8年6月から令和9年2月を予定しており、この工事により小田急箱根が管理する市内3駅は全てバリアフリー化が完了する。また、市内全体では18駅のうち12駅のバリアフリー化が完了する。</p> <p>(意見・質問なし)</p>
<p>・報告事項5 バスの乗り方教室・バス de おでかけプロジェクト・バスマップについて</p>	
<p>事務局</p>	<p>【資料5に基づき説明】</p> <p>バスの乗り方教室は、小学校低学年の児童を対象にバスの乗降体験や乗り方の学習を行うもので、バス事業者各社の協力で開催いただいている。</p> <p>例年、各社の路線沿線の小学校で実施しており、今年度は箱根登山バスにより山王小学校2年生、伊豆箱根バスにより久野小学校2年生、富士急モビリティにより下曾我小学校1～2年生、神奈川中央交通により下中小学校2年生を対象にそれぞれ実施いただいた。下曾我小学校では初開催であった。</p> <p>バス de おでかけプロジェクトは、自家用車から公共交通への利用転換を促進し、道路混雑の緩和や二酸化炭素排出量の削減を図るため、ダイナシティ、イトーヨーカドー小田原店、箱根登山バス、富士急モビリティ、小田原市の連携で実施している事業で、今回で11回目を迎えた。具体的には、11月の期間中にダイナシティやイトーヨーカドー小田原店で3,000円以上の買い物をした方に、バス無料乗車券を配付する取組。</p> <p>前回と比べ、配付数・利用数ともに少ない結果となったが、ダイナシティの</p>

	<p>25周年と重複し、新聞の折込チラシに掲載ができなかったことなど、プロジェクトの周知がやや弱くなってしまったことが要因と考えている。</p> <p>関連イベントとして開催したバス de おでかけフェアでは、箱根登山バスの車両とともに、自動運転技術の確立のための実証実験で連携している本田技術研究所がCiKoMa（サイコマ）の展示も行った。</p> <p>県西部都市圏バスマップは、県西地域の全てのバス路線を網羅した地図のほか、主要なのりば、お得な運賃・サービスの案内を掲載しており、県西地域2市8町で構成する神奈川県西部広域行政協議会都市交通部会にて、県の市町村振興協会の助成金を活用して更新を行った。</p>
会長	バスマップは何部印刷していて、どの程度配布できているか。
事務局	例年1万5,000部発行しているが、今年度は予算の都合で2万5,000部印刷している。市内では公共施設や小田原地下街ハルネ等の商業施設で配布しているが、他市町でどのように配布しているかは把握していない。
会長	他市町の状況も把握し、改善を図っていただけると良い。
会長	バス de おでかけプロジェクトの配布や利用数が減少したのは、広告や周知だけが原因ではないように思う。また、アンケート結果で、徒歩や自転車で来店している割合が多い点も気になった。10回以上実施してきた事業だが、経年変化を分析しているか。
事務局	アンケートの経年の分析はできていない。
会長	免許を保有している高齢者数が高止まりしている中、若い世代は保有率が下がっているが、そういった社会状況がこのアンケートにも反映されてきている可能性もある。一概に比較できるものではないが、経過を注視したい。
・その他	
会長	資料の作りについて、地域公共交通計画のどの施策に紐づいた事業かを示しており、非常にわかりやすかった。今後も計画に沿って、協議会や事務局、事業者が協力して取組を進めていきたい。
・事務連絡	

事務局長	以下2点の事務連絡 ・会員名簿の更新（年度切り替えに伴う更新を後日依頼） ・次回の令和8年度第1回の会議は「書面協議」となる
------	--